

日本ハーディ協会第66回大会

日時 2023年11月4日(土) 9:15~12:00
場所 関東学院大学 横浜関内キャンパス9階 YK-901教室
〒231-0031 横浜市中区万代町1-1-1
電話 045-264-4311(代表) 大学HP: <https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/>

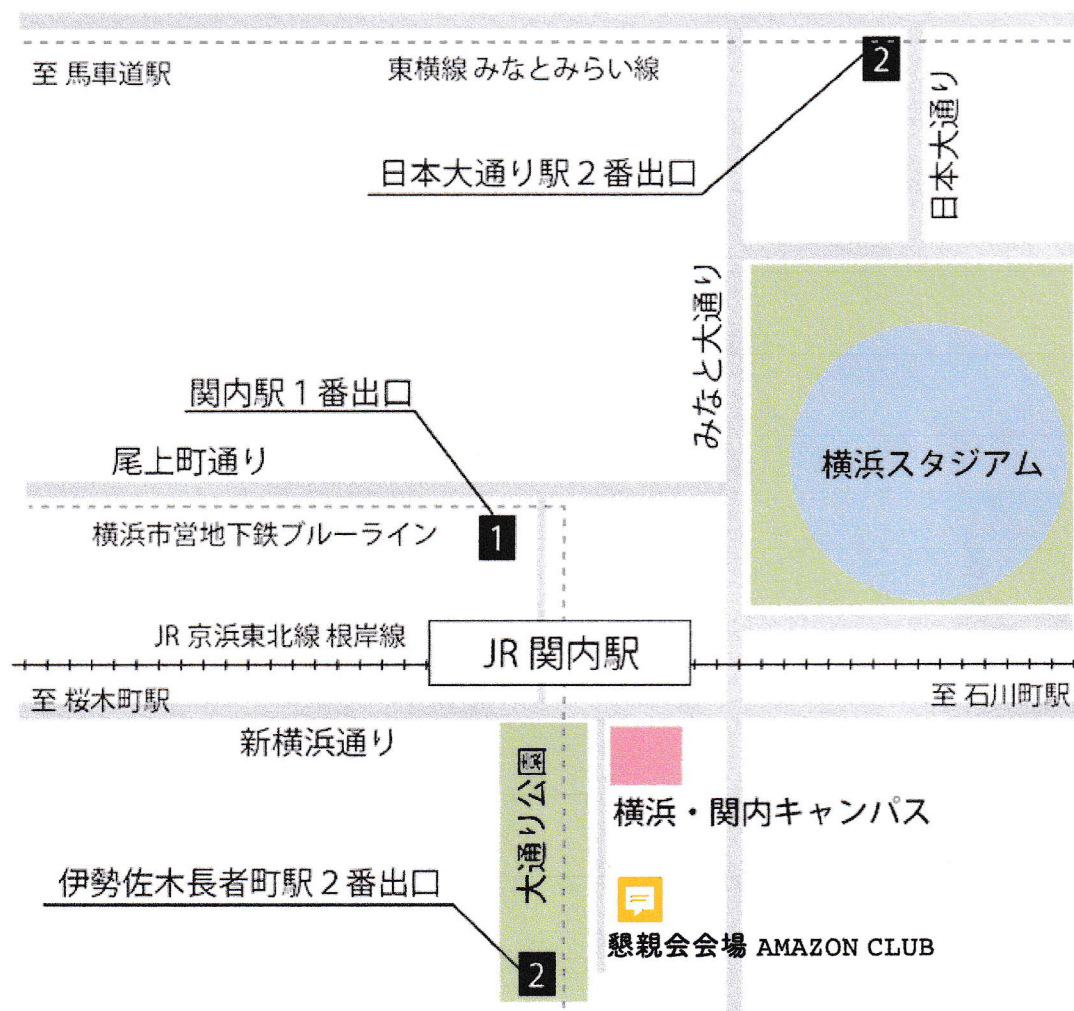
開会の辞	(9:15)	総合司会	日本ハーディ協会庶務委員長 東京都立大学教授	亀澤 美由紀
総会	(9:20~9:50)	司会	日本ハーディ協会事務局長 近畿大学准教授	高橋 路子
○会計報告 ○編集委員会報告(会報・協会ニュース) ○次期大会について ○その他				
研究発表	(9:55~10:30)	司会	実践女子大学教授	土屋 結城
'So, Time': Thomas Hardy's 'Bending-Ocean' and Albert Einstein's Theory of Relativity			日本女子大学教授	Neil Addison
特別講演	(10:35~11:55)	司会	前日本ハーディ協会会長・元立教大学教授	新妻 昭彦
ウィリアム・モリスとトマス・ハーディ 古建築物保護協会の関与をめぐって		講師	日本女子大学名誉教授	川端 康雄
閉会の辞	(11:55)	日本ハーディ協会会長・西南学院大学教授		金子 幸男
昼食休憩	(12:00~13:00)			

- ※ 受付は9時から開始します。19世紀イギリス文学合同研究会にも参加される方は、午前の大会受付の際に、午後
の受付もお済ませください。又、懇親会に参加される方は、受付の際に懇親会費をお支払い下さい。昼休みの受
付は混雑が予想されますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、受付では年会費の徴収は行って
おりません。
- ※ 休憩室(関内キャンパス9階 YK-902教室)を用意しておりますが、教室内での食事は禁止となっておりますの
で(ペットボトルの持ち込みは可)、飲食物を持参される場合は9階ラウンジ(飲食可)でお召し上がりくださ
い。それ以外の場所で飲食される場合は、1階の「Nathan-Coffee 1884」あるいはB1階の「BACON Books &
Cafe」をご利用いただくか、大学近隣の飲食店をご利用ください。
- ※ 発表者控室は関内キャンパス11階 YK-1104教室です。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、リモート開催に変更させていただく場合もございます。
- ※ 大会への出欠確認については、別途ご案内いたします。非会員で当日参加希望の方は、あらかじめ事務局までご
連絡ください。
- ※ 日本ハーディ協会大会懇親会を開催しますが、これは19世紀イギリス文学合同研究会懇親会を兼ねます。懇親会
会場については別途ご案内いたします。
- ※ 当日は、感染対策にも万全を期し、密にならないよう十分に広い会場で行います。マスクの着用は参加者の皆様
の判断にお任せしますが、室内で密になる場面がある場合には、着用をお勧めします。発熱や咳、倦怠感などの
症状がある場合は参加をお控えください。
- ※ 当日のゴミは必ずご自身でお持ち帰りいただくようお願いいたします。

問い合わせ先: 日本ハーディ協会事務局
〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4-1 近畿大学経営学部 高橋路子研究室
メールアドレス: jimu.thsjapan@gmail.com

主催 日本ハーディ協会

横浜	5分 JR京浜東北線 根岸線	関内
横浜	5分 横浜市営地下鉄 ブルーライン	関内
横浜	7分 東急線 みなとみらい線	日本大通り

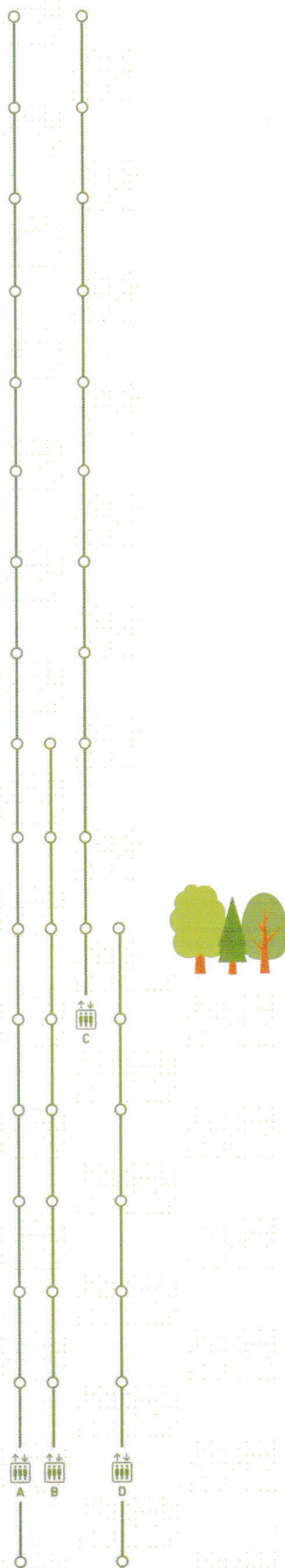


横浜・関内キャンパスの最寄り駅は、JR 京浜東北線 根岸線及び、横浜市営地下鉄ブルーラインの「関内駅」。横浜から約 5 分、東京駅からも約 40 分に位置します。また、東急線 みなとみらい線の「日本大通り駅」も利用可能です。

JR 関内駅南口駅前に位置し、関内駅からは徒歩約 2 分、日本大通り駅からは徒歩約 8 分です。

※ 懇親会の会場 AMAZON CLUBは、JR 関内駅南口より徒歩3分／横浜市営地下鉄 伊勢佐木長者町駅より徒歩3分
〒231-0031 神奈川県横浜市中区万代町2-4-1 東カン横浜パークサイド 201
URL: <http://www.amazon-club.com/>

17		ユニバーシティ・ラウンジ/KGUサロン メディア・スタジオ/会議室
16	 	1601-1613 ゼミ室/多目的室 大学院演習室/大学院共同研究室
15	 	1501-1510 教室 ゼミ室/CALL教室
14	 	1401-1408 教室 セミナールーム
13		1301-1308 教室
12		1201-1206 教室 人間共生学部専任教員控室
11		1101-1105 教室 経営学部専任教員控室
10		1001-1005 教室 法学部専任教員控室
9	  	901-902 教室 学院保健センター/教員控室
8	 	ラーニングcommons 学生支援室
7	  	ラーニングcommons フォレストテラス/カフェスタンド
6		ステップホール/セミナールーム 大学オフィス/就職支援センター インターナショナルラウンジ (WIP)
5		デジタル図書室
4		マッチングオフィス/コワーキング・スペース カウンセリングセンター
3		テンネー記念ホール 2階席
2	  	テンネー記念ホール 1階席
1	  	INFORMATION クライミング/ランニングステーション Nathan-Coffee 1884
B1	 	BACON Books & cafe



-  インフォメーション
-  エレベーター
-  化粧室
-  多機能トイレ
-  ベビーケアルーム
-  自動販売機
-  カフェ
-  AED

《日本ハーディ協会大会 研究発表》

‘So, Time’: Thomas Hardy’s ‘Bending-Ocean’ and Albert Einstein’s Theory of Relativity

Neil Addison

Professor, Japan Women’s University

As various scholars have noted, Thomas Hardy’s later poetry contains several references to relativity (Schweik 60; Henchman 232). This reflects Hardy’s keen reading of Albert Einstein’s theory of relativity during the early 1920s (Björk 544). But Hardy’s imaginative representation of time and space as relative also echoes his earlier poetic work. In ‘An August Midnight’ (1901), Hardy challenged the notion of an objective reality, accentuating the strangeness of creatures’ relative spatial perspectives, while his later ‘Drinking Song’ (1928), referred to reality as ‘a sort of bending-ocean’ (Hardy 70). Further, in ‘In a Museum’ (1917), Hardy addressed the hopeful possibility that the past could continually exist while in ‘The Absolute Explains’ and ‘So, Time’ (1925), he appeared to align his understanding of Einsteinian spacetime with his own perceptions of a living past. This paper will therefore discuss how Hardy’s representation of Einstein’s relativity illustrates his broader treatment of the concept of time.

Bibliography

Björk, Lennart A., editor. *The Literary Notebooks of Thomas Hardy: Volume 2*. Macmillan, 1985.

Hardy, Thomas. *The Complete Poetical Works of Thomas Hardy: I*. Edited by Samuel Hynes, Oxford UP, 1982.

Henchman, Anna. *The Starry Sky Within: Astronomy and the Reach of the Mind in Victorian Literature*. Oxford UP, 2014.

Schweik, Robert. “The Influence of Religion, Science, and Philosophy on Hardy’s Writings.” *The Cambridge Companion to Thomas Hardy*, 3rd ed., edited by Dale Kramer, Cambridge UP, 2005, pp. 54-72.

《日本ハーディ協会大会 特別講演》

ウィリアム・モリスとトマス・ハーディ

古建築物保護協会への関与をめぐって

日本女子大学 名誉教授 川端 康雄

ウィリアム・モリス (William Morris, 1834-96) とトマス・ハーディは直接の面識はなかったと思われるが、『ダーバヴィル家のテス』の著者贈呈を受けたモリスの礼状が残っていて、そのなかで

『はるか群衆を離れて』と『帰郷』を以前に読み自然描写に感銘を受けた次第をハーディに伝えている（1891年12月15日付）。ハーディのほうはモリス没後にマッケイルの伝記を読み“‘What a strenuous character Morris’s was[!]’”と感想を記している。

注目すべき二人の接点として、1877年発足の古建築物保護協会（The Society for the Protection of the Ancient Buildings; SPAB）での活動がある。モリスはこの協会の設立者にして運動のリーダーだった。当時英国内で大規模に行われていた古建築（特にゴシック様式の教会建築）の「修復」（restoration）という名目での破壊行為に憂慮して、ギルバート・スコット（Gilbert Scott, 1811-78）を筆頭とするゴシック・リヴァイヴァルの「修復建築家」たちの恣意的改変から建築物を守ることがをめざして立ち上げた組織だった。ハーディは建築家としての活動期に教会修復に従事したのだが、1870年代初頭に建築家から作家に転じて、自身が関与した修復の内実には批判的な目を持つようになる。じっさい、1881年に彼は SPAB の趣旨に賛同して入会、ウィンボーン・ミンスターの修復計画への反対運動を手始めとして、ドーセットを拠点にして同協会の活動に協力を惜しまなかった。SPAB の 1906 年の年次総会で読まれた講演「教会修復の思い出」（Memories of Church Restoration）は、ハーディの若き日の建築家修行時代と SPAB への協力の経験が生かされていて、深刻かつユーモラスなエピソードに富み、たいへん味わい深い。そこで示されている古建築物についての見解はモリスのそれと響きあう部分が多くある。本特別講演ではこのテキストをモリスの SPAB 関連の発言と対照させつつ、両者の建築、芸術、歴史の見方を考察してみたい。付随的に、モリスとハーディの双方に（時期を異にしながらも）深く関わったシドニー・コッカレル（Sydney Cockerell, 1867-1962）の仕事にも言及することになるだろう。